

最終評価シート

最終評価（表紙）

山鹿市歴史的風致維持向上計画(平成21年3月11日認定) 最終評価(平成20年度～令和2年度)

■ 統括シート(様式1).....	2
■ 方針別シート(様式2)	
I 歴史的な建造物の把握と支援	3
II 良好な市街地環境や田園景観の形成.....	4
III 祭礼行事、伝統芸能などの継承や新たな価値付け.....	5
IV 郷土の文化を理解してもらうための取組の推進	6
■ 波及効果別シート(様式3)	
i 湯まち地区の歴史的風致を楽しむ場や機会の多様化と観光客数の維持	7
ii 国が指定する史跡鞠智城跡の普及啓発	8
iii 地場産業として山鹿灯籠の育成	9
■ 代表的な事業の質シート(様式4)	
A さくら湯再建及び公園整備事業	10
B 八千代座周辺整備事業	11
C 歴史的な小路整備事業	12
■ 歴史的風致別シート(様式5)	
1 菊鹿古代の里地区に見る歴史的風致	13
2 山鹿湯まち地区に見る歴史的風致	14
3 来民地区に見る歴史的風致	15
■ 庁内体制シート(様式6)	16
■ 住民評価・協議会意見シート(様式7)	17
■ 全体の課題・対応シート(様式8)	18

市町村名	山鹿市	評価対象年度	H20～R2
① 歴史的風致			
	歴史的風致	対応する方針	
1	菊鹿古代の里地区に見る歴史的風致	Ⅱ、Ⅳ	
2	山鹿湯まち地区に見る歴史的風致	Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ、Ⅳ	
3	来民地区に見る歴史的風致	Ⅲ	
② 歴史的風致の維持向上に関する方針			
	方針		
Ⅰ	歴史的な建造物の把握と支援		
Ⅱ	良好な市街地環境や田園景観の形成		
Ⅲ	祭礼行事、伝統芸能などの継承や新たな価値付け		
Ⅳ	郷土の文化を理解してもらうための取組の推進		
③ 歴史まちづくりの波及効果			
	効果		
i	湯まち地区の歴史的風致を楽しむ場や機会の多様化と観光客数の維持		
ii	国が指定する史跡鞠智城跡の普及啓発		
iii	地場産業として山鹿灯籠の育成		
④ 代表的な事業			
	取り組み	事業の種別	
A	さくら湯再生及び公園整備事業	歴史的風致維持向上施設の整備・管理	
B	八千代座周辺整備事業	歴史的風致維持向上施設の整備・管理	
C	歴史的な小路整備事業	歴史的風致維持向上施設の整備・管理	

市町村名	山鹿市	評価対象年度	H20～R2
方針	I 歴史的な建造物の把握と支援	今後の対応	継続展開

① 課題と方針の概要

豊前街道沿いにある町屋の解体が進展するとともに、解体後に駐車場に転用されるなど、歴史的風致を阻害する土地利用形態が顕著になっていた。また、所有者と管理者の建物に対する考え方の相違により、町屋の修復・修景ができないケースもあり、課題となっていた。

町屋への助成制度を拡充するとともに、所有者と管理者の考えの不一致により修復・修景が進まない状況を改善するため、関係者の協力のもとに町屋の台帳を作成して、その属性を情報として集約したうえで、修復・修景工事の相談にも適切に対応できる体制の構築を目指す。

② 事業・取り組みの進捗

	項目	推移	計画への位置付け	年度
1	歴史的まちなみ整備事業	99件に修景補助	あり	H11～30
2	歴史的風致形成建造物改修事業	2件を修理(H27～H28に1件づつ)	あり	H27～28
3	町屋の台帳作成	年度ごとに更新	あり	H27～

③ 課題解決・方針達成の経緯と成果

【歴史的まちなみ整備事業】

・町屋の修景が毎年平均約5件のペースで進展している。この事業は、歴史的風致維持向上計画策定前のH11年度から進められており、その実績は105件に及ぶ。R2年10月現在、湯まち地区の修景候補の物件数185件に対して、約56.7%が修景済みとなっている。歴史的な町並み景観の向上が図られている。

【歴史的風致形成建造物改修事業】

・計画に掲載される歴史的風致形成建造物(候補)は、11件を数える。そのうち、2件を歴史的風致形成建造物に指定し、修理を行った。

【町屋の台帳作成】

・町屋の修景や歴史的風致形成建造物の修理を希望する当該建造物の所有者からの申請を受け付ける一元的な窓口としての役割を担う都市計画課では、町屋の修理・修景の円滑な推進を図るため、町屋の台帳を作成した。台帳作成により、履歴に基づく修理や修景に対する関係者間の情報共有がやりやすくなり、結果、町並み景観の質の向上につながっている。



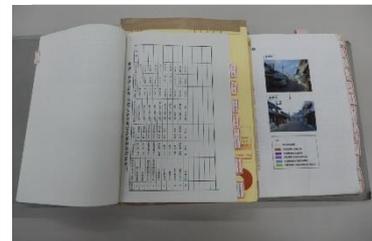
修景前



修景後

④ 自己評価

- ・豊前街道の町並み景観の連続性が高まった。
- ・国の登録有形文化財であり、豊前街道沿いで一際目立つ「山鹿灯籠民芸館」、湯の守り神として敬われる「薬師堂」が歴史的風致形成建造物として改修されたことで町並みの歴史景観が向上した。
- ・豊前街道沿いに町屋の雰囲気を活かした店舗等が増えた。
- ・一方、手つかずの修景候補の物件がまだ数多く残されている。

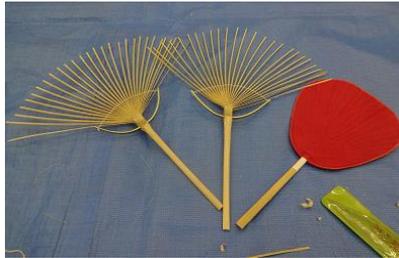
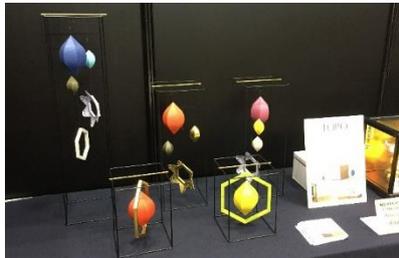


町屋の台帳

⑤ 今後の対応

- ・手つかずの修景候補の物件に対する修景補助事業を今後とも継続していく。
- ・H28年4月の熊本地震発生により、市民の地震対策に対する関心が高まったのを踏まえ、指定文化財ではない町屋等で、望見可能な前面部分の修景工事に伴う費用の助成のみでなく、防災の観点から、耐震補強を補助対象にする等、補助の対象範囲の拡大に取り組んでいく。

市町村名	山鹿市	評価対象年度	H20～R2																																			
方針	Ⅱ 良好な市街地環境や田園景観の形成	今後の対応	継続展開																																			
<p>① 課題と方針の概要</p> <p>湯まち地区では「さくら湯」が解体され、シンボリック施設が見当たらない状況となっていた。菊鹿古代の里地区では、ビニールハウス等の残滓や景観と調和しない建物が建てられ、条里制遺構が残り歴史性が感じられる田園景観が阻害され課題となっていた。</p> <p>市民との協働による歴史と文化を生かしたまちづくりを推進し、良好な市街地環境や田園景観の形成を目指す。</p>																																						
<p>② 事業・取り組みの進捗</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>項目</th> <th>推移</th> <th>計画への位置付け</th> <th>年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>景観条例・景観計画による誘導</td> <td>届出件数34件</td> <td>あり</td> <td>H20～R2</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>八千代座周辺整備事業</td> <td>広場、交流施設等を整備</td> <td>あり</td> <td>H21～22</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>さくら湯再建及び公園整備事業</td> <td>さくら湯再建、周辺の修景整備</td> <td>あり</td> <td>H23～24</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>豊前街道・歴史的小路整備事業</td> <td>8路線を整備</td> <td>あり</td> <td>H20～R2</td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>案内板整備事業</td> <td>13基を設置（菊鹿の里5基、湯まち8基）</td> <td>あり</td> <td>H25～28</td> </tr> <tr> <td>6</td> <td>国道325号電線共同溝整備事業</td> <td>延長約1kmの電線類地中化</td> <td>あり</td> <td>H24～30</td> </tr> </tbody> </table>					項目	推移	計画への位置付け	年度	1	景観条例・景観計画による誘導	届出件数34件	あり	H20～R2	2	八千代座周辺整備事業	広場、交流施設等を整備	あり	H21～22	3	さくら湯再建及び公園整備事業	さくら湯再建、周辺の修景整備	あり	H23～24	4	豊前街道・歴史的小路整備事業	8路線を整備	あり	H20～R2	5	案内板整備事業	13基を設置（菊鹿の里5基、湯まち8基）	あり	H25～28	6	国道325号電線共同溝整備事業	延長約1kmの電線類地中化	あり	H24～30
	項目	推移	計画への位置付け	年度																																		
1	景観条例・景観計画による誘導	届出件数34件	あり	H20～R2																																		
2	八千代座周辺整備事業	広場、交流施設等を整備	あり	H21～22																																		
3	さくら湯再建及び公園整備事業	さくら湯再建、周辺の修景整備	あり	H23～24																																		
4	豊前街道・歴史的小路整備事業	8路線を整備	あり	H20～R2																																		
5	案内板整備事業	13基を設置（菊鹿の里5基、湯まち8基）	あり	H25～28																																		
6	国道325号電線共同溝整備事業	延長約1kmの電線類地中化	あり	H24～30																																		
<p>③ 課題解決・方針達成の経緯と成果</p> <p>【景観条例・景観計画による誘導】</p> <p>・湯まち地区の豊前街道沿いを「景観形成重点地区」、菊鹿古代の里地区の鞠智城周辺を「景観形成誘導地区」に指定し、景観誘導の強化を図っている。いずれも10mを超える建築物から届出を必要としている。また、景観形成基準に建築物の高さを13m以下と定める等、細やかな誘導・形成を図り、景観の保全が図られた。</p> <p>【豊前街道・歴史的小路整備事業】、【国道325号電線共同溝整備事業】</p> <p>・豊前街道や湯まちの歴史的小路、山鹿灯笼まつりの拠点となっている大宮神社の参道である市道大宮通花見坂の美装化、そして県が事業主体となる国道325号の電線共同溝整備事業の推進により、歴史ある湯まちとしての雰囲気醸し出す景観の質の向上が図られた。</p>																																						
<p>④ 自己評価</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「景観形成重点地区」等の指定により、周囲よりもきめ細やかな景観誘導が可能となった。新しい建物のデザインも町並みと調和するように誘導するなど、創造的に景観形成を進めることができた。 ・湯まち地区では、八千代座やさくら湯の整備、豊前街道の美装化等により、歴史ある湯まちとしての景観形成が図られた。市民有志による町並みガイド「山鹿市旅先案内人の会」や「下町惣門会」の活躍の場にもなっている。 ・一方、菊鹿古代の里地区では、史跡の指定前に林野庁の補助を活用して整備された復元建物をはじめ、経年劣化が進行し、対策が求められている。 																																						
<p>⑤ 今後の対応</p> <ul style="list-style-type: none"> ・湯まち地区では、今後も良好な市街地環境の形成に向けて、歴史的小路の整備や国道325号の無電柱化等、歴史的な市街地整備の推進に取り組んでいく。 ・菊鹿古代の里地区では、史跡指定地を管理する熊本県との連携により、復元建物等の経年劣化箇所を調査し、修理や更新等を中心とした鞠智城跡の環境整備に取り組んでいく。 																																						

市町村名	山鹿市	評価対象年度	H20～R2																									
方針	Ⅲ 祭礼行事、伝統芸能などの継承や新たな価値付け	今後の対応	継続展開																									
<p>① 課題と方針の概要</p> <p>少子高齢化の影響が祭礼行事や伝統芸能といった伝統文化の継承を担う組織の弱体化、職人の確保、後継者不足に現れている。また、山鹿灯籠、来民渋うちわの製作に用いられる材料の確保も困難になっている。</p> <p>古くから継承されてきた伝統技法、風土や価値観などを反映した祭礼行事、伝統芸能などの継承や新たな価値付けを行う。</p>																												
<p>② 事業・取り組みの進捗</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>項目</th> <th>推移</th> <th>計画への位置付け</th> <th>年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>山鹿市和紙工芸品製作後継者研修補助金</td> <td>来民渋うちわ23人、山鹿灯籠22人</td> <td>なし</td> <td>H21～R2</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>贈答用工芸品製作委託</td> <td>来民渋うちわ66件、山鹿灯籠98件</td> <td>なし</td> <td>H21～R2</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>山鹿灯籠・来民渋うちわ製作教室</td> <td>来民渋うちわ80人、山鹿灯籠97人</td> <td>なし</td> <td>H21～R2</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>山鹿市和紙工芸品製作後継者研修補助金</td> <td>灯籠師(4人)の育成等</td> <td>なし</td> <td>H20～R2</td> </tr> </tbody> </table>					項目	推移	計画への位置付け	年度	1	山鹿市和紙工芸品製作後継者研修補助金	来民渋うちわ23人、山鹿灯籠22人	なし	H21～R2	2	贈答用工芸品製作委託	来民渋うちわ66件、山鹿灯籠98件	なし	H21～R2	3	山鹿灯籠・来民渋うちわ製作教室	来民渋うちわ80人、山鹿灯籠97人	なし	H21～R2	4	山鹿市和紙工芸品製作後継者研修補助金	灯籠師(4人)の育成等	なし	H20～R2
	項目	推移	計画への位置付け	年度																								
1	山鹿市和紙工芸品製作後継者研修補助金	来民渋うちわ23人、山鹿灯籠22人	なし	H21～R2																								
2	贈答用工芸品製作委託	来民渋うちわ66件、山鹿灯籠98件	なし	H21～R2																								
3	山鹿灯籠・来民渋うちわ製作教室	来民渋うちわ80人、山鹿灯籠97人	なし	H21～R2																								
4	山鹿市和紙工芸品製作後継者研修補助金	灯籠師(4人)の育成等	なし	H20～R2																								
<p>③ 課題解決・方針達成の経緯と成果</p> <p>【山鹿市和紙工芸品製作後継者研修補助金】、【贈答用工芸品製作委託】、【山鹿灯籠・来民渋うちわ製作教室】等</p> <ul style="list-style-type: none"> ・製作研修を受ける後継者に対する補助、山鹿灯籠・来民渋うちわ製作教室開催への支援、および山鹿灯籠まつり時の奉納灯籠の製作費に対する町内会等への補助等を行い、山鹿灯籠や来民渋うちわの製作に関する後継者の育成、確保、技術の向上、ひいては灯籠師の収入の安定化へと繋げている。 ・上記の取り組みは、「山鹿灯籠振興会」設立につながっている。また、灯籠師が4人増え、後継者の確保に成果を挙げている。 ・山鹿灯籠は、振興会の申請により、H25年12月26日、国が指定する「伝統的工芸品」に認められた。更に、振興会は、H26年2月、国に「山鹿灯籠に関する振興計画」の認定も果たし、同計画の下、国の支援を受けて様々な取り組みを推進している。特に、スタンドモビール「TouRou」の開発は代表される取り組みの一つである。 																												
<p>④ 自己評価</p> <ul style="list-style-type: none"> ・山鹿灯籠、来民渋うちわの後継者育成や周知に繋がった。 ・山鹿灯籠の国による「伝統的工芸品」の指定、及び振興計画の認定によって、後継者の育成・確保をはじめ、新商品の開発や販路拡大に期待ができるようになった。 		 <p>山鹿灯籠製作教室</p>  <p>来民渋うちわ製作教室</p>  <p>スタンドモビール「TouRou」</p>																										
<p>⑤ 今後の対応</p> <p>・次世代を担う伝統産業の職人の育成、そして技術を継承していくためにこれまでの取り組みを継続していく。また、体験型の観光は地域の重要なコンテンツであり、特に伝統工芸の体験は人気が高いため、日常的に体験活動が行える施設体制の整備を図るなど、伝統工芸を活かした体験型の観光振興策を企画し、実施していく。</p>																												

市町村名	山鹿市	評価対象年度	H20～R2
方針	IV 郷土の文化を理解してもらうための取組の推進	今後の対応	継続展開

① 課題と方針の概要

少子高齢化の影響が祭礼行事や伝統芸能といった伝統文化の継承を担う組織の弱体化や後継者不足に現れている。このような状況が見られることは、維持向上していくべき歴史的風致に対する地元住民の理解が十分ではないことも原因の一つと考えられる。
 地元住民や各種団体と連携し、郷土の文化を理解してもらうための取り組みを推進する。

② 事業・取り組みの進捗

	項目	推移	計画への位置付け	年度
1	八千代座100周年イベントの開催	実行委員会発足、イベント開催	なし	H21～23
2	さくら湯再建に伴うイベントの開催	現場見学会や開湯記念イベント開催	なし	H23、24
3	条里制遺構が残る田園保全事業	草刈、用水路の浚渫等実施	あり	H23～R2
4	「鞠智城の日」のイベント開催	「鞠智城の日」の参加者延24,335人	なし	H24～R2
5	「山鹿さくら湯開湯まつり」の支援	実行委員会発足、まつり開催等支援	なし	H30～R2

③ 課題解決・方針達成の経緯と成果

【八千代座100周年イベントの開催】、【さくら湯再建に伴うイベントの開催】
 ・八千代座やさくら湯の整備にあたって、それぞれ地域参加型の実行委員会の設立に取り組み、記念イベント等の開催に取り組んだ。イベントの開催により、町並みに対する市民の関心が高まった。

【条里制遺構が残る田園保全事業】
 ・菊鹿古代の里地区では、農業従事者だけでなく、自治会や子ども会等の非農業従事者も参加した地域の活動組織による共同作業に対して支援を行い、条里制遺構である水路や農地等の維持保全が図られた。

【「鞠智城の日」のイベント開催】
 ・銅像菩薩立像が発見された10月23日に近い日曜日を「鞠智城の日」として市民参加型のイベントを毎年開催している（※H28年は雨天中断、H29年は台風で中止、令和2年はコロナ禍のため、鞠智城ウイークイベントを実施）。毎年4,000人前後の参加があり、好評を得ている。

【「山鹿さくら湯開湯まつり」の支援】
 ・平成24年11月23日のさくら湯開湯を記念して、11月23日を中心に開催。民間団体主体の実行委員会により、郷土の観光振興に寄与するイベントとなっている（入込客数：H30年約1.6万人、R1約0.7万人※R1は悪天候によるイベント中止あり）。市は財政的支援（補助金）を含む後方支援を行っている。



さくら湯再建に伴うイベントの開催/さくら湯開湯記念「山鹿温泉秋まつり」



「鞠智城の日」の様子



「山鹿さくら湯開湯まつり」

④ 自己評価

・郷土の文化を理解してもらうための取組として様々なイベント等に取り組んできた。イベント等には、多くの人々の参加があり、八千代座、さくら湯、条里制遺構、鞠智城を知ってもらうことができた。

⑤ 今後の対応

・郷土の文化を理解してもらい、それが市民の誇りとなるように、参加を楽しむ中で歴史的風致の認識を高めるイベント等を企画し、実施していく。

市町村名	山鹿市	評価対象年度	H20～R2
効果	ii 国が指定する史跡鞠智城跡の普及啓発		

① 効果の概要

様々なイベントに人々が集まり、鞠智城跡のイメージアップが図られた。

② 関連する取り組み・計画

	他の計画・制度	連携の位置づけ	年度
1	山鹿市総合戦略(一次 H27年策定、二次 R元年度策定)	あり	H27～R1 R2 ～R6
2	鞠智城跡保存管理計画増補版(H27年3月、県策定)	あり	H27～R12
3	第3次鞠智城跡保存整備基本計画(H28年3月、県策定)	あり	H28～R18

③ 効果発現の経緯と成果

- ・10月に開催する「鞠智城の日」のイベントには、毎年4,000人前後の参加があり、好評を得ている。（※P6参照）
- ・鞠智城跡を巡る鞠智城ウォークラリー（菊鹿レクリエーション協会主催）に毎年約200人の参加がある。
- ・鞠智城跡をスタートし地域を巡るJRウォーキングには、H26～27年に500人、地震直後に700人の参加があった。H29年に一時減少したが、その後回復している。（※令和2年はコロナの感染拡大で中止。）
- ・鞠智城関連のシンポジウムが随時開催され多くの人々が訪れている。H25年の大阪約500人、東京約400人、H26年やH27年の明治大学アカデミーホールでは約1200人の参加があった。
- ・H29年4月6日、鞠智城が公益財団法人日本城郭協会から日本を代表する歴史的名城として「続日本100名城」に認定された。
- ・H29年4月28日、鞠智城がある菊池川流域の市町村（山鹿市、玉名市、菊池市、和水町）で取り組んでいた「米作り、二千年にわたる大地の記憶～菊池川流域「今昔『水稲』物語」～」が日本遺産に認定された。



鞠智城ウォークラリーとJRウォーキングの参加者の推移
 ※H30の鞠智城ウォークラリーは実施方法を変更したため少なかった。R1に戻した。



鞠智城ウォーキングラリーの様子



鞠智城シンポジウムの開催
 会場：明治大学（参加約1200人）

④ 自己評価

- ・鞠智城跡に関する様々なイベントの開催が鞠智城跡の知名度アップに貢献し、その成果の一端がH28年4月の「続日本100名城」認定やH29年4月の「日本遺産」認定にも繋がった。市民の愛着や誇りの向上に貢献している。
- ・今後は、更なる知名度の向上に向けて、「続日本100名城」や「日本遺産」としての情報発信が求められている。

⑤ 今後の対応

- ・鞠智城跡の学術的な価値を高めることから知名度の向上につなげていくため、引き続きシンポジウムを開催していく。
- ・市民や地域住民にとって誇りとなる史跡であり、古代を体験できる場所としての認知を広げるため、各種イベントを開催していく。

市町村名	山鹿市	評価対象年度	H20～R2
効果	iii 地場産業として山鹿灯籠の育成		

① 効果の概要

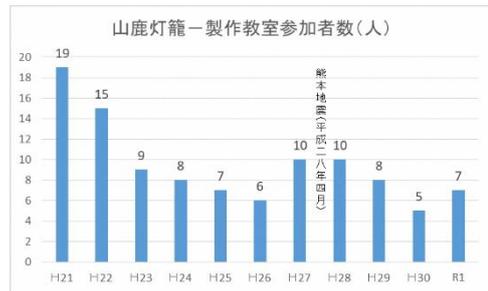
山鹿灯籠の後継者確保、地場産業としてのPRに効果があがっている。

② 関連する取り組み・計画

	他の計画・制度	連携の位置づけ	年度
1	第2次山鹿市総合計画(H28年3月策定)	あり	H28～R7
2	山鹿市総合戦略(H27年10月策定)	あり	H27～R1
3	山鹿灯籠に関する振興計画(令和元年度改訂)	なし	H26～R2

③ 効果発現の経緯と成果

- ・例年、参加の応募があり、山鹿灯籠製作教室の開催を続けることができています。これまで毎年5～19人の参加があり、延べ人数は約100人に及ぶ。
- ・中学生の職場体験の授業が続いている。職場体験の授業は、後述する一人の若者が「山鹿灯籠師」になることを志したきっかけにもなっている。
- ・山鹿灯籠民芸館は、H27年度の改修の際に耐震補強工事も行われていたことで、熊本地震の被害が少なく、建物・展示品も大きな被害から免れた。前述したように、来場者も大きな減少に至っていない。
- ・H24年12月「山鹿灯籠振興会」が設立、H25年12月国の伝統的工芸品の認定を受け、その後、有名デザイナーによるファッションショーへの使用、京都での展示やPR、東京ビックサイトで開催された「ツーリズムEXPジャパン」へ出展をはじめ、様々なイベント等への参加や出展が展開している。
- ・山鹿灯籠のイメージアップやPRが図られている。幅広い取組の成果もあって、「灯籠師」の増加(4人)、そして若い「灯籠師」の誕生にも成果を挙げている。



山鹿灯籠振興会の設立総会の様子



国の伝統的工芸品の指定記念の展示



ツーリズムEXPOジャパンへの参加

④ 自己評価

- ・山鹿灯籠の認知度を飛躍的に高め、地場産業としての育成に効果があった。
- ・国の伝統的工芸品としての指定は、山鹿灯籠の工芸品の地位の確保に繋がっている。特に、若い世代の「灯籠師」の誕生は、山鹿灯籠の継承に繋がる大きな成果と考える。

⑤ 今後の対応

- ・若い世代の意見も取り入れながら、時代のニーズにあった山鹿灯籠の継承とPRに取り組んでいく。

市町村名	山鹿市	評価対象年度	H20～R2
取り組み	A さくら湯再生及び公園整備事業	種別	歴史的風致維持向上施設
<p>① 取り組み概要</p> <p>市街地再開発事業により、再開発ビルの中に取り込まれたさくら湯を、暮らし賑わい再生事業によるビルのリニューアルに伴い、新たな集客施設として往時を偲ばせる木造で再建し、湯のまちの歴史的な佇まいを醸し出す温泉施設として整備を行った。</p>			
 <p>往時のさくら湯</p>		 <p>再開発ビルに取り込まれ、ビルの一部に入ったさくら湯</p>	
 <p>再建したさくら湯全景</p>		 <p>多くの人で賑わう「さくら湯開湯記念・山鹿温泉秋まつり」</p>	
<p>② 自己評価</p> <p>さくら湯が開湯したことにより、八千代座や豊前街道と一体となり、歴史と文化を生かしたまちづくりを進めるうえで中核となる施設が整った。</p> <p>さくら湯は、豊前街道に面し往時の姿を再現した大規模な施設であるため、豊前街道やその周辺部で取り組んでいる歴史・文化・景観を生かしたまちづくりへの理解がよりいっそう深まり、まちなみ整備事業の推進が見込まれ、歴史的町並みの連続性が確保できた。</p> <p>新しいさくら湯の「入湯手形」、八千代座や山鹿灯笼(とうろう)民芸館等の入館料が無料になる「山鹿観光手形」を発行し、総工費の一部を寄付で集めた。再建に対する人々の関心を集めた。</p> <p>H26年度より開湯2周年を記念して、地元商店街、飲食店組合、商工・観光関係団体等で構成された実行委員会による「さくら湯開湯記念・山鹿温泉秋まつり」が開催されるなど、市民主体によるまちづくりがより一層進展することができた。</p>			
外部有識者名	山鹿市景観審議会委員 原田和典(崇城大学芸術学部教授)		
外部評価実施日	令和2年12月18日		
<p>③ 有識者コメント</p> <p>木造で再建されたさくら湯は、豊前街道にも面しているが、広場空間を介して入場するスタイルであるため、直線的な街道空間に奥行きをもたらし、イベントなどに活用できるだけでなく、日常的に立ち止まる、一休みするなどの活動を誘発し、ヒダのある景観形成にも役立っている。</p>			
<p>④ 今後の対応</p> <p>木造でさくら湯が再建されたことは、山鹿湯まち地区の歴史的風致の向上に大きく貢献している。今後は、湯まちの中心としてさくら湯周辺における町並み形成や菊池往還の道路美装化に取り組み、歴史的風致の更なる向上に取り組んでいく。</p>			

市町村名	山鹿市	評価対象年度	H20～R2
取り組み	B 八千代座周辺整備事業	種別	歴史的風致維持向上施設
<p>① 取り組み概要</p> <p>八千代座正面に位置する空き地を木戸前広場として整備するとともに、豊前街道沿いに「八千代座交流施設」を整備し、八千代座周辺の回遊性の向上を図った。</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div style="text-align: center;">  <p>整備された木戸前広場</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>写真左側の建物と広場が八千代座交流施設 （中央奥が八千代座）</p> </div> </div>			
<p>② 自己評価</p> <p>八千代座正面に整備した木戸前広場は、八千代座を訪れる方の休憩、談話の場として活用している。八千代座での各種公演時には物産品等も出店し、多くの人で賑わうようになっている。八千代座交流施設は、公演時の楽屋や稽古場としての活用される他、一般の利用にも開放し、多くの人を訪れている。広場と施設の整備が、豊前街道の回遊性の向上に貢献している。豊前街道沿いに白壁を敷設したことにより、交流施設と豊前街道との一体的を高めることができた。また、歴史ある町並みの連続性を創出する効果が得られた。</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div style="text-align: center;">  <p>八千代座でイベントが開催されている時、人々で賑わう木戸前広場</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>子どもたちを対象とした忍者体験イベントが開催された八千代座交流施設内ホール</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>歴史ある町並みの連続性を創出する効果が得られた豊前街道沿いの白壁</p> </div> </div>			
外部有識者名	山鹿市景観審議会委員 原田和典(崇城大学芸術学部教授)		
外部評価実施日	令和2年12月18日		
<p>③ 有識者コメント</p> <p>八千代座は、豊前街道より一段奥まった位置にあり、前面の道路の幅員も狭いため、堂々たるファサードを一見することは難しいが、木戸前広場があることで少し引いた位置からも八千代座の正面を見上げることができ、撮影スポットとしても活用できる。街道沿いでも空地があるとコインパーキングなどが作られ、街道の景観を分断する要素にもつながるため、建物以外にも景観形成に資する整備の例として評価できる。</p>			
<p>④ 今後の対応</p> <p>八千代座は、全国的に知名度が高いだけでなく、日本遺産の構成文化財にもなっている。今後は、日本遺産のストーリーや市内に所在する構成文化財（「山鹿湯まち 豊前街道沿いの歴史的町並み」、「生地川流域の酒造り(千代の園酒造)」等との関係性をアピールし、人々の回遊性の促進に活かしていく。また、歴史ある町並みが維持できるような対策を検討していく。</p>			

市町村名	山鹿市	評価対象年度	H20～R2
取り組み	C 歴史的小路整備事業	種別	歴史的風致維持向上施設
<p>① 取り組み概要</p> <p>豊前街道から延びる生活道路である小路（しゅうじ）8路線を、20年度から24年度までの5カ年で順次整備を行った。</p> <p>小路の整備は、豊前街道を軸に山鹿湯まち地区に点在する歴史的・文化的拠点施設等を結ぶ回遊性のある散策ルートとして位置づけるとともに、地区内居住者の日常生活における利用等にも配慮した歩行者優先の道として、基本的には現道幅員内による整備とした。</p> <p>殆どが一般的なアスファルト舗装であったため、これを周囲の雰囲気にあった地道風の舗装とし、併せてマンホール蓋の意匠変更等を行うなど、歴史的な町並みに合った散策路へと変身させた。</p>			
<ul style="list-style-type: none"> ・西中町泉町線（L=290m） ・金剛乗寺参道線（L=171m） ・裏雨屋小路線（L=136m） ・玄小路線（L=286m） ・宗方口線（L=156m） ・院の馬場線（L=140m） ・石丸口線（L=133m） ・中町小路線（L=95m） 			
			
施工前		施工後	
<p>② 自己評価</p> <p>人々が訪れたい空間や訪れる人が憩い交流できる広場として、八千代座周辺、温泉プラザ及びさくら湯周辺等の回遊性を高める施設の充実を図った。</p> <p>また、それらの施設を結ぶ景観に配慮した地道風舗装の豊前街道や小路の整備により、歴史的な風情が一層高められるとともに、まち歩きルートの拡大につながっている。</p>			
外部有識者名	山鹿市景観審議会委員 原田和典（崇城大学芸術学部教授）		
外部評価実施日	令和2年12月18日		
<p>③ 有識者コメント</p> <p>小路は、豊前街道から伸びる路地空間を形成し、町並みに奥行きを与え、回遊性を高める装置としても重要な存在である。しかし、現状は舗装の美装化が進められている段階で、今後、回遊性を高める商店、飲食店などが小路沿いに増えることで湯まち地区の魅力が高まるものと期待される。</p>			
<p>④ 今後の対応</p> <p>豊前街道から続く小路の美装化により、町並みに奥行きが生まれた。一方、まだ美装化が完了していない豊前街道や小路が残されている。湯まち全体の歴史的風致の維持向上に向けて、美装化が完了していない豊前街道や小路の美装化に取り組むとともに、通り沿いの町並み修景の推進に取り組み、湯まちとしての風情が感じられる景観形成に取り組んでいく。</p>			

市町村名	山鹿市	評価対象年度	H20～R2
歴史的風致	1 菊鹿古代の里地区に見る歴史的風致	状況の変化	維持
対応する方針	Ⅱ 良好な市街地環境や田園景観の形成 Ⅳ 郷土の文化を理解してもらうための取組の推進		

① 歴史的風致の概要

菊鹿古代の里地区は、菊池川の恵みにより古くから稲作文化が発達し、8世紀の律令時代には肥後国府によって条里制が敷かれ、現在も条里制遺構が残る水田では営農が継続されている。また、1,200年前に京都から勧請されたと伝わる「松尾神社」や条里制遺構が残る水田内にある「釣棚跡」と呼ばれる御旅所では「遷宮祭」という伝統的な祭祀が昔ながらの素朴な農村集落の人々の手によって受け継がれている。

② 維持向上の経緯と成果

・平成16年（2004）に国の史跡に指定された鞠智城跡は、「歴史公園鞠智城」として建物復元や周辺整備が行われており、また、「鞠智城説明ボランティア会」の活躍もあり、多くの人々が訪れる歴史公園として親しまれるようになった。



鞠智城説明ボランティア会によるガイド

・菊鹿古代の里地区の鞠智城周辺を「景観形成誘導地区」に指定し、景観誘導の強化を図っている。いずれも10㎡を超える建築物から届出を必要としている。また、景観形成基準に建築物の高さを13m以下と定める等、細やかな誘導・形成を図っている。歴史公園を中心とする広域的な景観保全が図られている。

・菊鹿古代の里地区では、農業従事者だけでなく、自治会や子ども会等の非農業従事者も参加した地域の活動組織による共同作業に対して支援を行い、条里制遺構である水路や農地等の維持保全が図られている。



子ども達も参加した生活環境保全活動（ゴミ拾い）



田園景観を維持保全する農道法面の草刈

③ 自己評価

・鞠智城跡は、「歴史公園鞠智城」の整備により、多くの人々が訪れるようになった。平成28年4月の地震前は年間約10万人、地震後は約6万人訪れ、回復傾向を見せている。地域学習の場として地元小学生が訪れ、鞠智城の歴史に対する理解を深める場になっている。また、「景観形成誘導地区」の指定により、広域的な景観保全も図られている。

・平場に位置し、条里を継承する農地は、農業従事者だけでなく地域住民が清掃活動や草刈り等に参加し、田園環境が維持されている。

・ただし、条里制の区画が残る農地と鞠智城跡との関係性等を周知する取組が十分ではない。

・今後は、菊鹿古代の里としての一体感を高めるためにも、条里制の区画が残る農地と鞠智城跡との関係性等についても理解を促すガイダンス等の充実が求められている。

④ 今後の対応

・菊鹿古代の里として、条里制の区画が残る農地と鞠智城跡との関係性等を周知する取組を推進していく。

・菊鹿古代の里としての一体的な景観が向上していくため、ひきつづき市民参加型の環境保全活動への支援を続けていくとともに、鞠智城公園周辺地区（景観形成誘導地区）の拡大を図るなど景観保全策の強化に取り組む。

市町村名	山鹿市	評価対象年度	H20～R2
歴史的風致	2 山鹿湯まち地区に見る歴史的風致	状況の変化	向上
対応する方針	I 歴史的な建造物の把握と支援 III 祭礼行事、伝統芸能などの継承や新たな価値付け II 良好な市街地環境や田園景観の形成 IV 郷土の文化を理解してもらうための取組の推進		

① 歴史的風致の概要

山鹿湯まち地区は、菊池川の水運がもたらした古い商都がその基礎となっており、芝居小屋としては九州で唯一の国指定の重要文化財「八千代座」のほか、豊前街道や菊池往還沿いに古い商家の町並みや金剛乗寺、薬師堂、大宮神社などの歴史上価値の高い建造物があるとともに、「灯籠と温泉」に代表される歴史と文化を反映した市民活動が営まれている。

② 維持向上の経緯と成果

- ・ 景観を阻害する看板の撤去や修景が行われた町屋が増えたことで、豊前街道の町並み景観の連続性が向上した。
- ・ さくら湯が往時の姿に復元されたことで、豊前街道の歴史的町並みの連続性が高まった。
- ・ 八千代座の修理と周辺整備により、豊前街道沿いの歴史的風致の維持向上が図られた。
- ・ 豊前街道沿いで一際目立つ「山鹿灯籠民芸館」、湯の守り神として敬われる「薬師堂」が歴史的風致形成建造物として改修されたことで町並みの歴史景観が向上した。
- ・ 豊前街道や歴史的小路の美装化、豊前街道を分断する国道325号の電線地中化により、歴史ある湯まちとしての雰囲気醸し出す景観の質の向上が図られた。
- ・ 郷土の文化を理解してもらう市民主体の取り組み「山鹿市旅先案内人の会」、「下町惣門会」が来訪者のもてなしに活躍している。八千代座、さくら湯、豊前街道沿いの町屋等が竹灯りや和傘を使った灯りのオブジェで彩られる夜のイベント「山鹿灯籠浪漫・百華百彩」が冬の一大イベントとして定着している。
- ・ 豊前街道沿いに町屋の雰囲気を活かした店舗等が増えた。



薬師堂の修理前



薬師堂の修理後

③ 自己評価

- ・ 八千代座、さくら湯、豊前街道等の整備により、歴史的風致の維持向上が図られた。但し、豊前街道や小路沿いには老朽化した町屋や町並みと調和しない建物も残されている。また、美装化が図られていない歴史ある道路が残る他、国道325号は無電柱化が完了していない。
- ・ 「山鹿市旅先案内人の会」や「下町惣門会」等の活躍が、多くの人々で賑わった往時の山鹿湯まちの賑わいの創出に貢献している。しかし、かつての賑わいを取り戻すほどの十分な効果はまだ得られていない。

④ 今後の対応

- ・ 豊前街道沿いを中心に町屋の修理、町並みの修景、道路の美装化、無電柱化といった歴史ある市街地環境の形成に取り組む。
- ・ 併せて、「山鹿市旅先案内人の会」や「下町惣門会」等と協力し、山鹿湯まちの歴史や文化の案内を行う中で、観光客がそぞろ歩く、湯まちの賑わいの再生を図る。

市町村名	山鹿市	評価対象年度	H20～R2
歴史的風致	3 来民地区に見る歴史的風致	状況の変化	維持
対応する方針	I 歴史的な建造物の把握と支援 III 祭礼行事、伝統芸能などの継承や新たな価値付け IV 郷土の文化を理解してもらうための取組の推進		

① 歴史的風致の概要

来民地区には、歴史を感じさせる土蔵造りの町屋や寺社などの町並みが残り、ここを舞台に招魂祭や歴史ある洪うちわの製作技法が継承されるなど、肥後藩主細川忠利公ゆかりの山鹿新町としての風情が感じられる。

② 維持向上の経緯と成果

招魂祭の開催にあたり、実行委員会及び実行委員会メンバーに補助金の交付を行ってきた。毎年、お盆に合同慰霊祭、総踊り等が開催されている。



厳かな合同慰霊祭



大きなうちわを掲げて菊池往還を歩く子供たち



総踊りに参加し、うちわを持って菊池往還を歩いて踊る人々



総踊りに参加し、うちわを持って菊池往還を歩いて踊る若者達

③ 自己評価

お盆に開催される招魂祭は、子供からお年寄りまで参加する夏祭りとして定着している。帰省してきた人と地元の人との交流の場や機会にもなっており、多くの人で賑わっている。



御霊返しの式典

④ 今後の対応

歴史的風致の維持向上の観点から、今後とも招魂祭の継続を支援していく。また、単なる夏祭りとならないように、合同慰霊祭や総踊りの歴史的な背景等について周知していく取組を推進していく。

市町村名	山鹿市	評価対象年度	H20～R2
------	-----	--------	--------

① 庁内組織の体制・変化

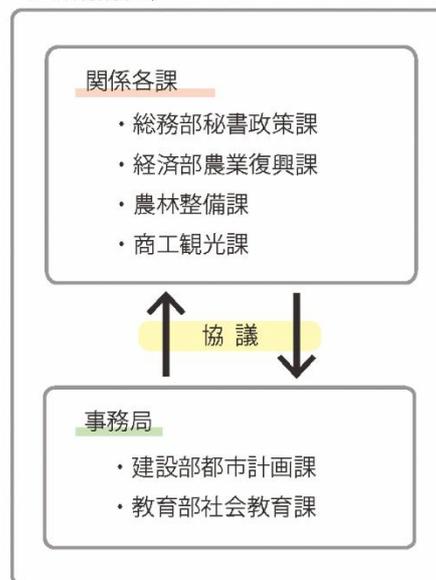
庁内の関係部署を中心にした「山鹿市歴史的風致維持向上計画連絡協議会（以下、連絡協議会と言う。）」により計画の協議調整などの作業を行っている。

連絡協議会は、総務部秘書政策課、経済部農業復興課・農林整備課・商工観光課が参加し、事務局は建設部都市計画課と教育部社会教育課が担っている。



庁内連絡会議の様子

連絡協議会



② 庁内の意見・評価

・少子高齢化や居住者の減少に伴う伝統行事等の担い手不足は喫緊の課題であり、人材支援等の継続的な取り組みが必要である。

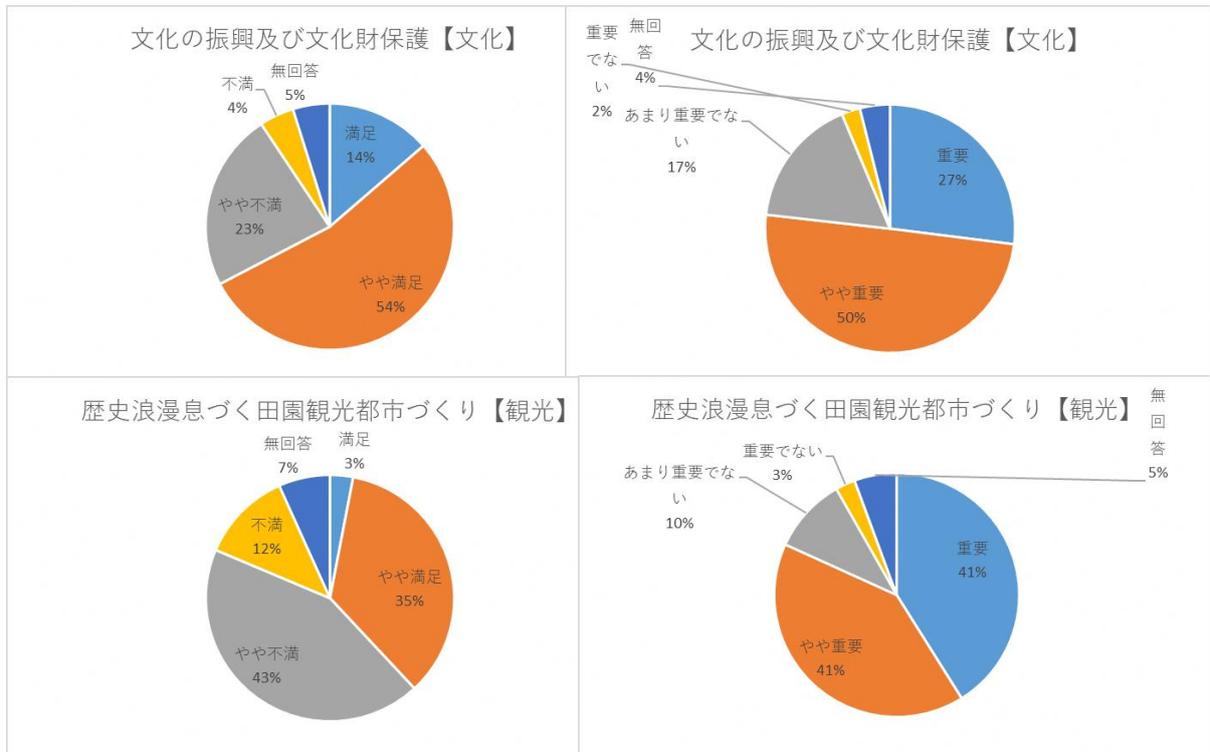
・計画当初、小路の整備を行ったが、経年劣化による補修が必要な時期になっている。

・湯まち地区の豊前街道沿いの古民家について空き家が増えてきていることで街なみ環境整備事業を整備しているが、利用数が伸びていない。対策が必要である。

・さくら湯、薬師堂や温泉プラザなどの整備により山鹿市の中心地のもてなし交流拠点が新しく出来上がった。更なる活性化を求めて「山鹿温泉祭」や「山鹿灯籠まつり」の充実に向けて取り組みの強化を図っていくべき。

市町村名	山鹿市	評価対象年度	H20～R2
------	-----	--------	--------

① 住民意見 設問：山鹿市の取り組みについて、満足度と重要度についてお伺いします。



「山鹿市総合計画後期基本計画」進捗状況把握のための市民意識調査結果報告より(H26年2月)

平成26年2月に実施された「山鹿市総合計画後期基本計画」進捗状況把握のための市民意識調査から、歴史まちづくりに関連する住民意識を以下に整理する。

●市民意識調査の結果

- ・「文化の振興及び文化財保護【文化】」について、満足度は68%、重要度は77%とともに高い割合の市民の意識として醸成できていると思われる。
- ・「歴史浪漫息づく田園観光都市づくり【観光】」については、満足度が38%とかなり低い数字となっているが、重要度については82%と市民の意識や関心はかなり高いと言える。

② 協議会におけるコメント

- ・住民意見を踏まえると、「文化の振興及び文化財保護【文化】」については重要な取り組みと認識され、取り組み事態についても満足頂いていると言える。
- ・しかし、「歴史浪漫息づく田園観光都市づくり【観光】」については、市民の重要度はかなり高いが取り組みについては十分とは認識されていない。
そこで、今後も継続して歴史的建造物などの維持向上に取り組む第2期計画を策定し、さらに市民に認められる取り組みの強化が必要であると思われる。

市町村名	山鹿市	評価対象年度	H20～R2
① 全体の課題			
<p>（１）歴史的建造物等の保存・活用に関する課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ・歴史的建造物で修理ができていないもの、空き家になっているものも存在する。 ・熊本地震以降、歴史的建造物の防災対策が喫緊の課題となっているが、具体化に至っていない。 ・前回の町並み調査から時間が経っており、利用状況や安全性が把握できていない歴史的建造物がある。 			
<p>（２）歴史的環境の保全・形成に関する課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「豊前街道山鹿地区（景観形成重点地区）」は、最高高さが13mを超えないことを定めているが、法的拘束力は無い。また、「歴史的町並み地区（景観形成誘導地区）」には、良好な景観の形成に関する方針を定めるのみで、景観形成基準や地区の範囲に対する「届出対象行為」を定めていない。 ・豊前街道の周辺では、主要道路に無電柱化の未整備区間が残っている。 ・豊前街道から分岐する小路で美装化が図れていない区間もある。 ・人口減少・高齢化により今後も条里制を受け継ぐ田園環境の維持は困難なことが予想される。 ・鞠智城跡において復元された建造物の一部が20年を経過し、老朽化が著しくなっている 			
<p>（３）歴史と文化を反映した活動の継承に関する課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ・伝統的な地場産業の後継者の育成はまだ十分とはいえない。和紙など、伝統的工芸品の材料の安定的な確保にも至っていない。 ・地域で継承される伝統的な年中行事等の実態把握が十分ではない。 ・人口減少・高齢化により今後も伝統文化を継承する団体や自治会の弱体化も予想される。 			
<p>（４）郷土の歴史文化への認識向上に関する課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ・歴史と文化の普及啓発が十分ではない。 ・来訪者に対しては、鞠智城跡周辺の案内板や日本遺産の構成資産の解説などが不足している。 ・八千代座等が日本遺産に認定されたが、それらをつなぎ回遊する仕組みなどが十分講じられていない。 			
② 今後の対応			
<p>（１）歴史的建造物等の保存・活用への対応</p> <ul style="list-style-type: none"> ・歴史的建造物の大切さを市民に周知し、市民の理解と協力を得て、歴史的建造物の無為な解体を減らす、歴史的建造物の価値や魅力を高める保存と活用策の推進を図る。 			
<p>（２）歴史的環境の保全・形成への対応</p> <ul style="list-style-type: none"> ・歴史的建造物や歴史的な活動を取りまく歴史的環境を保全・形成していくことを目指し、歴史的市街地の環境整備やまちなみ整備の推進、景観計画に基づく景観保全策の強化等に取り組んでいく。また、棚田など歴史的生産環境の保全は地域の住民だけでなく、都市部の住民もサポーターとして参画し、維持していくような仕組み作りに取り組む。 			
<p>（３）歴史と文化を反映した活動の継承への対応</p> <ul style="list-style-type: none"> ・引き続き、山鹿灯籠、来民洪うちわの担い手育成や後継者育成や周知に取り組む。また、これら以外にも市内で継承される伝統工芸や伝統芸能等に関する実態把握や失われる危険性の高いものを優先しつつ、その記録作成に取り組む。 			
<p>（４）郷土の歴史文化への認識向上への対応</p> <ul style="list-style-type: none"> ・日本遺産に認定された実績も踏まえながら、既存の公共施設や展示公開施設等の活用を前提とし、地域の歴史と文化をより多くの人々に知ってもらえるような情報発信等を推進していく。 			